



身近な文字を行書で書く指導

高知市立城東中学校 校長 おおたにとしひろ
大谷俊彦

1960年、高知県生まれ。県学校教育課指導主事、文部科学省主幹などを経て現職。光村図書小・中学校書写教科書編集委員。著書に『学校経営マンガラート』で創る新しいカリキュラム・マネジメント』（ぎょうせい）など。

新しい
学習指導要領の理解

まず初めに、今年度から全面实施となった新学習指導要領の書写に関する事項を抜粋して示すので、第一学年の「知識及び技能」について、再確認したい。

(ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

身近な文字を
行書で書く指導とは？

この「身近な文字を行書で書くこと」について

で、「中学校学習指導要領解説 国語編」では、次のように示されている。

漢字の行書の基礎的な書き方とは、直線的な点画で構成されている漢字を、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を伝統的な文字文化とも関連させながら理解して書くことを意味している。身近な文字を行書で書くとは、そうした行書の基礎的な書き方を理解し、学習や生活の中で使用頻度の高い語句などについて書くことである。

学習や生活の中で使用頻度の高い身近な文字とは、どのような文字が思い浮かぶだろうか？

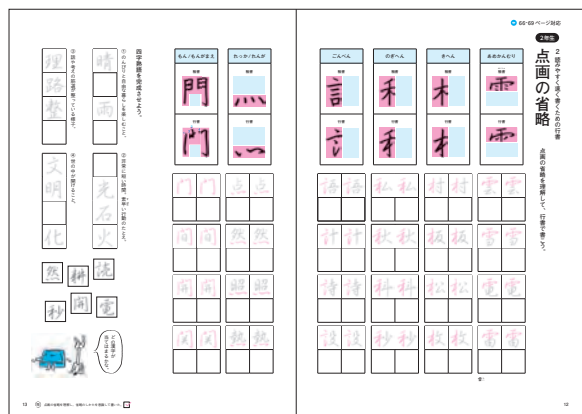
【授業の流れ】

導入 行書学習の法則を使って、芸能人の名前を行書で書く。

展開 書写ブックを使いながら、自分の名前を行書で書く。

終末 家族や友達の名前、学校名、住所を行書で書く。

導入では、嵐の「松本潤」という文字を行書で書くために、書写ブックを使い考えることにした。芸能人の名前を使うことで、書写の学習が一気に身近なものになってくる。



「書写ブック」(硬筆練習帳)P12-13「点画の省略」



次に、導入と同じ方法で、書写ブックを使いながら、自分の名前を行書で書く学習を行った。各自、自分の名前を文字を分解したり、組み合わせたりしながら、行書の書き方について調べていった。早く終わった生徒には、家族の名前や友達の名前、学校名や住所を行書で書く課題を課すこととした。

真っ先に思い浮かぶのは自分の名前や住所、家族の名前や学校名などではないだろうか。こうした身近な文字を正しく行書で書けるようになることが求められているのである。

自分の名前を
行書で書く！

ここで、「自分の名前を行書で書く！」という実践例を紹介したい。

行書で書くためには、行書の特徴を知る必要がある。教科書で「丸み・点画の連続」「点画の変化」「点画の省略」「筆順の変化」など、行書の特徴をすべて学習した後に、この課題に取り組ませることとした。

授業後の生徒の感想には、「行書で自分の名前が正しく書けるようになり、少し大人になった気がした。」「家に帰って、親に、正しい行書の名前の書き方を教えてあげたい。」「一生使う自分の名前なので、これからも正しく行書で書いていきたい。」とあった。「深い学び」が求められている今、できなかったことができるようになる喜びと、授業での学びが生活に役立つことを、生徒が実感できる授業になったようだ。

終わりに



中学校の書写教育については、第一回(90号)でも述べたとおり、授業時数が十分に確保されていない現状がある。こうした必然性のある書写授業を実施することが、現状の改善につながると考えている。書写の配当授業時数を再確認のうえ、適切な指導をお願いしたい。

【本連載は今号が最終回となります。ご愛読ありがとうございました。】